

# 専門分野

## 地域・在宅看護論 講義 6 単位 実習 5 単位

### 1. 地域・在宅看護論の考え方

他国に類をみない早さで進展する少子・超高齢社会への移行及び疾病構造の変化に伴い、医療機関は治療に特化し、地域で生活しながらリハビリテーション、症状のコントロール、看取りなどの支援が必要となっている。これまでの、「治す医療」から「治し支える医療」へ転換し、住み慣れた地域で、自分らしい生活を人生の最後まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの推進に向け、多様な場でのケアが必要となる。各種サービス機関と多職種がチーム医療を展開することが求められる。

地域・在宅看護は、地域で生活するすべての人が自宅やそれに準じた環境で生活できるよう、症状に応じた適切な医療の提供、相談、指導、のぞむサービスの提供、生涯にわたる健康づくりの支援をすることである。それは、保健・医療・福祉のあらゆる面から対象およびその家族に対して、「生活の質」の向上を目指す支援となる。

人間としての奥深さを理解し、地域で生活し続けることができるよう、ケアマネジメントを学び、自己決定や生活の再構築を支援していく方法を学習する。各健康段階に応じた適切な看護ができるよう、対象を取り巻く環境やシステム、人的・物的資源の活用、地域のネットワークの構築に向けても専門性を発揮し役割を担えるよう学習を進めていく。

### 2. 目的

地域で生活する人々、地域で生活しながら療養生活をする人々、あるいは障害をもちながら生活する人々とその家族を理解し、それぞれの環境に準じた場で生活できるよう支援することを学ぶ。

### 3. 目標

- 1) 地域で生活する人々の健康と生活を支える看護を知る。
- 2) 地域・在宅看護論の目的・特性を理解する。
- 3) 在宅療養生活する対象や家族の自己決定権を尊重しながら、その人らしい生活を支援する重要性を理解する。
- 4) 在宅療養生活する対象や家族を支える社会資源の活用及び多職種との連携や協働の必要性を理解する。
- 5) 対象、環境に応じた在宅看護実践の技術を学ぶ。
- 6) 対象の療養状態に応じた看護・継続看護を実施する。

専門分野 地域・在宅看護論 授業計画

授業科目及び時間数	地域・在宅看護概論 1単位 20時間		
開講時期	1年次 前期		
担当教員	吉田聖乃・勝治乃武子	実務経験	有
<p>&lt;科目のねらい&gt;</p> <p>療養の場における看護は、社会の変化に伴い刻々と変化していく制度や地域包括ケアシステムを基盤とし、多職種と連携し、ケアを展開する役割を期待されている。このような役割を理解するためには、地域で生活する人々について理解し、その人々を支援することを学ぶ必要がある。</p> <p>地域とは、そこで生活する人とは知り、これまでの看護の変遷やその社会背景をはじめ、生活する人々を支える看護の目的・基本的な理念や関連する概念を理解し、対象と家族を含めた支援の在り方を知る。また、済生会の理念と意義、取り組む福祉事業や活動を理解し、地域共生にむけ、今後自分たちが目指すべき道を考える機会とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活する人々を知る。</li> <li>2. 生活する人々への支援を通し、地域・在宅看護の機能と役割を理解する。</li> </ol>			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 地域・在宅看護が必要とされる社会的背景と役割	講義（吉田）	
2回目	1. 生活・健康・看護・環境の関係 1) 生活するものと環境（生活の場）について 2) 環境と健康の相互関係について 3) 生活・健康・環境（生活の場）の調整と看護	講義・グループワーク （吉田）	
3回目	1. 地域・在宅看護における療養の選択	講義・グループワーク （吉田）	
4回目	1. 地域・在宅看護の倫理と基本理念、対象者の権利保障	講義・グループワーク （吉田）	
5回目	1. 地域・在宅看護の目的と役割	講義（吉田）	
6回目	1. 地域・在宅での暮らしを支える連携 2. 地域・在宅での暮らしを支える制度 その1	講義・グループワーク （吉田）	
7回目	1. 地域・在宅での暮らしを支える制度 その2	講義・グループワーク （吉田）	
8回目	1. 済生会の理念と意義 2. 済生会の目指すソーシャルインクルージョン	講義（勝治）	
9回目	1. 済生会の活動 ・静岡済生会のあゆみ	講義（勝治）	
10回目	終了試験・まとめ	筆記試験（吉田）	
評価方法	筆記試験 100%		
受講生に対するメッセージ	「地域で生活する人を知る実習」とタイアップして講義を進める。実習前に2回実習後に残りの講義を行う。体験と公衆衛生Iの講義も含め学びを深めてほしい。個人ワーク、グループワークも取り入れて行う。このワークでの学びが試験評価に反映されるので、積極的に取り組んでほしい。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 医学書院		
参考書			

専門分野 地域・在宅看護論 授業計画

授業科目及び時間数	地域で生活する人々の環境と看護 1単位 15時間		
開講時期	2年次 前期		
担当教員	黒川みゆき	実務経験	有
<p>&lt;科目のねらい&gt;</p> <p>在宅の環境は個別性に富む。療養者の疾患や障害も多様であり、療養者と家族の生活様式もさまざまである。こうした療養者と家族の個別性を尊重しながら、生命活動、生活活動、そして社会活動を可能にするような働きかけが必要となる。まずは、人の生活を中心とした環境の変化を捉え、環境と人の生活との相互作用や、環境が人の生活と健康に与える影響とその対策について学習を深める。</p> <p>地域の調査を通し地域の特性と人々の健康、それを支える対策、支援について探求する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人の生活にかかわる環境の変化について説明できる。</li> <li>2. 生活環境が人の健康に与える影響と支援を具体的な例を通して説明できる。</li> <li>3. 調査から課題をみつけ、解決に向けて提案ができる。</li> </ol>			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 地域（静岡市）の健康、福祉について （健康な暮らしと環境/オリエンテーション）	講義・グループワーク	
2回目	健康と環境のアセスメント<調査準備>	講義・グループワーク	
3回目	健康と環境についてのフィールド調査、内容の検討	グループワーク	
4回目	フィールド調査の内容の検討、 関係者機関に交渉しつつ内容の調整充実	グループワーク	
5回目	健康支援の実際（フィールド調査）	グループワーク	
6回目	健康支援の実際（フィールド調査）	グループワーク	
7回目	課題の探求	グループワーク	
8回目	地域（静岡市）にまなぶ健康支援の実際とより健康な生活に向けての提案	プレゼンテーション（評価）	
評価方法	プレゼンテーション 評価（70%）ピア評価（30%）		評価（黒川）
受講生に対するメッセージ	講義・演習を含む科目であり、グループワークが中心となる。外部施設に出向き体験をする内容なので、その場、状況に応じた身なり、言葉遣い、学習姿勢で臨んでほしい。さらに、この演習の取り組み態度評価にピア評価を取り入れていく。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 医学書院		
参考書	ナーシンググラフィカ在宅看護論②在宅療養を支える技術 メディカ出版		

専門分野 地域・在宅看護論 授業計画

授業科目及び時間数	地域で生活する人々を支える看護技術 1単位 30時間		
開講時期	2年次 前期		
担当教員	風間菜穂子・小松千晶・田村万寿美	実務経験	有
<p>&lt;科目のねらい・到達目標&gt;</p> <p>在宅の環境は個別性に富む。療養者の疾患や障害も多様であり、療養者と家族の生活様式もさまざまである。こうした療養者と家族の個別性を尊重しながら、療養者の身体的・生理的基盤である生命活動、生活の基盤となる生活活動、そして社会活動を可能にするような働きかけが必要となる。その働きかけの基礎となる在宅看護実践の基本的技術を学ぶ。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>1. 在宅看護の目的・特性を理解し、対象や環境に合わせた在宅看護実践の基本技術を身につける。</p>			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 療養者や家族を支援するためのコミュニケーション 1) 在宅看護（訪問看護）で心がけること：訪問時のマナー	講義・演習（田村）	
2回目	1. 在宅におけるフィジカルアセスメント 1) 観察、フィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメント 2) 症状、徴候のアセスメント（心不全・意識障害など）	講義・演習（田村）	
3回目	1. 生活環境の調整技術 2. 在宅での移動・移乗の特徴 3. 在宅における移動・移乗の介助に関するポイント	講義・演習（風間）	
4回目	1 排泄（排便）及び栄養改善のケア	講義・演習（風間）	
5回目	1. 輸液	講義・演習（風間）	
6回目	1. 在宅中心静脈栄養法・経管栄養法	講義・演習（風間）	
7回目	1. 褥瘡予防、褥瘡処置	講義・演習（小松）	
8回目	1. ストーマ管理	講義・演習（小松）	
9回目	1. 在宅人工呼吸療養・非侵襲的陽圧喚起療法	講義・演習（田村）	
10回目	1. 在宅酸素療法 協力：帝人ヘルスケア（株）	講義・演習（田村）	
11回目	1. 疼痛緩和	講義・演習（田村）	
12回目	1. 地域リハビリテーション推進センター見学	演習（田村）	
13回目	1. 生活演習	演習（田村）	
14回目	1. 発表会	プレゼンテーション（田村）	
15回目	終了試験	筆記試験（田村）	
評価方法	見学・演習レポート（10%）終了試験（田村 50% 風間 30% 小松 10%）		
受講生に対するメッセージ	講義・演習を含む科目となる。また、グループワークを中心に展開していく。自らの意見を積極的に発言できることを希望する。外部施設に出向く体験もある。その場に応じた身なり、言葉遣い、学習姿勢で臨んでほしい。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 医学書院		
参考書	ナーシンググラフィカ在宅看護論②在宅療養を支える技術 メディカ出版		

専門分野 地域・在宅看護論 授業計画

授業科目及び時間数	地域で生活する人々を支える看護 1単位 20時間		
開講時期	2年次 後期		
担当教員	増田恵美・丸山久美子・草深光子 垣田有香・横田佳苗・田村万寿美	実務経験	有
<p>&lt;科目のねらい&gt; 在宅看護における安全と健康危機管理について学び、日常生活援助ならびに医療的援助に活かせるようにする。また、様々な事例から、療養者と家族、それらを取り巻く環境と状況に応じた看護の実践を学び、既存の知識を応用し、多職種と連携することで看護の実施に結びつけることができることを理解する。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 1. 在宅で療養生活をする対象に応じた看護と家族（介護者）への看護を理解する。 2. 在宅療養を支える社会資源の活用と多職種との連携の必要性を理解する。</p>			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	「おじいちゃんが夕方になると徘徊しているの、どうしたらいい」と相談されたらどうする？ 1. 認知症で療養する対象の看護	講義・グループワーク（横田）	
2回目	1. 認知症で療養する対象の看護の展開	講義・グループワーク（横田）	
3回目	「あなたなら自分の最後をどう過ごしたいですか？」 1. 人生の最終段階を迎えた方への看護を考える	講義・グループワーク（増田）	
4回目	1. 人生の最終段階を迎えた方への看護の展開	講義・グループワーク（増田）	
5回目	「治療法が見つからない病気にかかってしまったら…」 どうする。 1. 神経難病で療養する対象の看護	講義・グループワーク（丸山）	
6回目	1. 神経難病で療養する対象の看護の展開	講義・グループワーク（丸山）	
7回目	1. 療養する小児への看護	講義・グループワーク（草深）	
8回目	1. 療養する小児への看護 事例を使って社会資源を知ろう	講義・グループワーク（草深）	
9回目	「訪問したら、お家の中がぐちゃぐちゃ!片づけられないで居る」 1. 精神障がい療養する対象の看護	講義・グループワーク（垣田）	
10回目	1. 精神障がい療養する対象の看護の展開	講義・グループワーク（垣田）	
11回目	終了試験	筆記試験（田村）	
評価方法	筆記試験（各講師 20%）		
受講生に対するメッセージ	グループワークを中心に進めていく講義となる。各自主体的に取り組んでほしい。この科目は5名の外部講師を招いての講義となる。今現場で起こっていること、体験談、トピックスを織り込でのお話も聞ける貴重な機会となることを意識して臨んでほしい。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 医学書院		
参考書			

専門分野 地域・在宅看護論 授業計画

授業科目及び時間数	地域で生活する人々を支える看護実践プロセス 1単位 30時間		
開講時期	2年次 後期		
担当教員	小串かおる・吉田聖乃	実務経験	有
<p>&lt;科目のねらい&gt;                  地域の特性を知り、その地域で暮らす、在宅療養者とその家族が、疾病や障害による機能的な制約や困難がありながらも保健・医療・福祉の支援や地域社会の協力を得てその人らしく生活を送っていけるよう、看護の展開方法を具体的に学ぶ。</p> <p>&lt;到達目標&gt;                  1. 在宅看護の展開方法が理解できる。                  2. 在宅で療養生活を送る対象に応じた看護がわかる。</p>			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 在宅看護に関する制度及び地域包括ケアシステムにおける看護の役割 (知識の確認)	講義・グループワーク (吉田)	
2回目	1. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割「静岡型地域包括ケアシステムとは」	静岡市出前講義 (吉田)	
3回目	1. 療養移行支援 病院の病床機能とその看護の特徴/療養移行支援の基本	講義 (小串) グループワーク	
4回目	1. 地域連携システムにおける看護機能と役割を理解する多職種の専門職者から活動及び協働の実際を学ぶ 1	講義・グループワーク (吉田)	
5回目	1. 地域連携システムにおける看護機能と役割を理解する多職種の専門職者から活動及び協働の実際を学ぶ 2	講義・グループワーク (吉田)	
6回目	1. 地域連携システムにおける看護機能と役割を理解する多職種の専門職者から活動及び協働の実際を学ぶ 3	講義・グループワーク (吉田)	
7回目	発表会	プレゼンテーション (吉田)	
8回目	1. 在宅看護に関する制度 介護保険/医療保険制度/障害者支援制度	講義・演習 (吉田)	
9回目	1. 訪問看護の制度と機能 ・在宅療養への移行支援	講義・演習 (吉田)	
10回目	1. 在宅看護における家族支援 ・家族のアセスメント方法、支援方法	講義・演習 (吉田)	
11回目	1. ケアマネジメントの展開 ・ケアマネジメントの目的と機能、提供方法、多職種との連携方法	講義・演習 (吉田)	
12回目	1. 在宅看護過程の展開 看護過程の目的、特徴、展開方法	講義・演習 (吉田)	
13回目	1. 在宅看護過程の展開 看護過程の目的、特徴、展開方法	講義・演習 (吉田)	
14回目	1. 在宅看護過程の展開 看護過程の目的、特徴、展開方法	講義・演習 (吉田)	
15回目	終了試験・まとめ	筆記試験 (吉田)	
評価方法	・筆記試験・看護過程 60%		
受講生に対するメッセージ	グループワークは資料を収集し、その資料を読み取る力の育成を図る。グループで協力しながら進めていくことが必要となる。積極的に意見交換をしてほしい。看護過程演習はこれ名での学習で培った知識を統合し応用することが求められる。全講義出席できることが望ましい。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 医学書院		

専門分野 地域・在宅看護論 授業計画

授業科目及び時間数	地域・在宅看護の探求 1単位 15時間		
開講時期	3年次 後期		
担当教員	吉田聖乃 黒川みゆき 勝治乃武子	実務経験	有
<p>&lt;科目のねらい&gt;</p> <p>地域・在宅における看護は、人々が地域において自分なりの健康で自分の望む暮らしを送ることができ、また病気になっても住み慣れた地域で暮らすことができることを支えるものである。また、それぞれの領域で対象者の「生活」を支える看護の基本を学んできた。すべての領域の実習が終了した時期に今までの経験を振り返り「生活」を支えることとは何かを明らかにしていくことで今後の自らの看護を明らかにしていく。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人々の生活を支えるために必要な看護を考える。</li> <li>2. 今後の看護の問題や課題を明確にする。</li> </ol>			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 地域・在宅看護論の学びのまとめ 講義ガイダンス	講義 (吉田 黒川 勝治)	
2回目	1. 地域・在宅看護論を中心にして、3年間の学びを振り返る生活を支えることとは何かを考える(個人学習)		
3回目	1. 地域・在宅看護論を中心にして、3年間の学びを振り返る(グループで個人学習したことの共有) 1	講義・グループワーク (吉田 黒川 勝治)	
4回目	生活を支えることとは何かを考える 今後の課題を明確にする		
5回目	1. 地域・在宅看護論を中心にして、3年間の学びを振り返る(グループで個人学習したことの共有) 2	講義・グループワーク (吉田 黒川 勝治)	
6回目	生活を支えることとは何かを考える 今後の課題を明確にする		
7回目	発表会	プレゼンテーション(評価) 吉田 黒川 勝治	
8回目			
評価方法	個人ワーク・グループで作成した提出物、参加度を総合して評価する		
受講生に対するメッセージ	この科目は地域・在宅看護論の最終科目です。地域で生活する人を知り、その人の疾病に対する予防活動を考え、罹患した場合どのような支援を受け生活していくのかを考えてきました。今後この人がQOLを維持しながら生活するためにはどのような看護が必要になるのか自己の体験だけではなくグループメンバーの体験なども参考にしながら広い視野でまとめてください。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 医学書院		
参考書			